



プレスリリース

2011年8月2日

インドネシアのトラ保護チームが スマトラトラを新たな生息地の移動に成功を収める

インドネシアのトラ保護チームがスマトラトラを新たな生息地の移動に成功を収める

インドネシア・ジャカルタ -- (ビジネスワイヤ) -- 新たな住処ができた「プトゥリ」は、今では南スマトラのベテット島にあるスンビラン国立公園内の安全な森を歩き回っています。官民協力による移動作戦が成功し、1頭の希少なスマトラトラの命が救われました。

プトゥリ（インドネシア語で王女を意味する）は、スマトラ島南スマトラ州で人間との衝突に巻き込まれた5歳のスマトラトラです。多数の地元・中央政府機関、野生生物や保全の専門家、民間企業、NGO が関わった数カ月わたる骨の折れる過程を経て、本日、この威厳のある動物が繁栄と種の再生を継続できる新たな安全な場所に放たれました。

インドネシアのズルキフリ・ハッサン林業相は、次のように述べています。「これはパートナーシップの力を証明するインドネシアの素晴らしい成功例です。私たちが国として直面する課題に対処しようと団結する時、何を達成できるかが示されています。スマトラトラは国の宝であり、私たちの豊かな歴史の象徴です。将来の世代のためにトラの健康と長寿を確保するには、国を挙げての協力が不可欠です。私は、この目標達成に向けて協力したこれら組織の努力を称えたいと思います」

ハッサン氏は、南スマトラ自然資源保全局（BKSDA）、スマトラトラ保全基金（YPHS）、アジア・パルプ・アンド・ペーパー・グループ（APP）、スンベル・ヒジャウ・プルマイ、スンビラン国立公園、サファリパーク・インドネシアの代表者と共に解放地で立ち会いました。すべてのグループの協力によって、トラが新たな住処に安全に移動されました。

YPHS の経験豊富な自然保護官としてプトゥリ捕獲チームを率い、解放準備中の数カ月間プトゥリを世話したバストーニ氏は、次のように述べています。「ヒトに遭遇したトラを安全に保護し、新たな住処に適した場所を探しながら世話をし、人々の協力によって安全な解放を実現

するためのプロセスには細心の注意を要します。慎重な計画、そしてトラのために協力して活動する多数の組織の関与が必要です」

プトゥリは今年、スンベル・ヒジャウ・プルマイ社が管理する南スマトラの植林地周辺で保護されました。野生生物の衝突管理に関する林業省令に沿い、BKSDA とバストーニ氏がトラ追跡チームを率いるために招かれました。BKSDA が提供したスチール製の箱罠に手を加えることで、バストーニ氏は 75 キロの雌のトラを安全に捕獲することに成功しました。

チームは、APP が 8x6x2 メートルの観察用の囲いを設置した安全な場所にトラを輸送しました。プトゥリは解放までの間に個体記録を取られ、サファリパーク・インドネシアの獣医師チームによる健康診断を受けました。プトゥリは健康状態が良好で解放可能と分かり、バストーニ氏のチームが安全な移動先の候補地を探す間、大切に世話をされ、生餌の食事を与えられました。

2003 年に正式に設立された 20 万 2,896 ヘクタールのスンビラン国立公園が、プトゥリの理想的な移転先と認められました。この場所は、バストーニ氏が BKSDA チームと共に率いた移転調査チームが、生餌が十分に得られる可能性、豊富な真水、トラが動き回る広く乾燥した土地が存在していることを確認して決定されました。プトゥリは、解放される前に GPS 付きの首輪を装着されました。新たな生息地で居場所を特定して監視し、安全を確保するためです。

APP マネジング・ディレクターのアイダ・グリーンベリーは、次のように述べています。

「プトゥリと南スマトラの森の住民・労働者の安全を確保するために、共通の目標を持つ献身的な専門家チームに加わられたことを非常に誇りに思っています。私たちは、人々とトラが平和に暮らせる方法を見出すために協力し合っています」

APP が支援するバストーニ氏と YPHS は、村民とトラとの間で衝突が起きた際に仲介役となるタイガー・ワーキング・グループ (TWG) の一員です。この組織は、森林への不法侵入や密猟と闘うための地域教育・監視活動、無線付き首輪とカメラトラップを使ったトラの監視・調査、トラと人間の衝突リスクを低減するプログラムなど、トラの生存率を高めるプログラムを開発しています。

詳細については www.rainforestrelities.com をご覧ください。

++

YPHS について

Yayasan Pelestarian Harimau Sumatera (スマトラトラ保護基金、YPHS) は、スマトラトラの保護と生息数の保全活動を行っているインドネシア国営の NPO 法人です。YPHS は、スマトラトラの持続可能な保護と、野生動物と保護の観点から平和的に共存できるコミュニティ作りをビジョンに掲げています。

YPHS の主なプログラムではスマトラトラの生息地の特定、トラ対ヒトの衝突の防止、トラの治療や本来の生息地へ移送、そして地域社会でのスマトラトラ保護の重要性の認知向上を目指し、スマトラトラの生息数増加のための手法やアイデアの提言を行っています。

センビラン国立公園について

センビラン国立公園は、202,896 ヘクタールからなる国立公園で、林業大臣の法令（2003 年 3 月 19 日公布、No. 95/Kpts-II/2003）により設立されました。センビラン国立公園は、南スマトラ州ムシ・バニユアシン区のバニユアシンII 地域にあり、北西部には、ジャンビ州のブルバック国立公園が位置しています。センビラン国立公園は、南スマトラ州における泥炭沼沢林、沼沢林、川岸にある森林地帯として有名です。

APP について

APP は、インダ・キアット紙パルプ会社、ピンド・デリ紙パルプ会社、チウィ・キミア製紙会社、ロンター・パピルス紙パルプ会社、エカマス・フォルトウナ、ユニヴィーナスなど、インドネシアにある多くの工場で生産されている紙製品の総合ブランドです。インドネシアに本社を置く APP は、120ヶ国以上の国々で製品を販売しています。APP の生産設備の大部分は LEI と PEFC による CoC（加工・流通過程）認証を取得しています。

APP は、複数の大規模保護活動を支援しています。この中には、リアウ州にある 17 万 2000 ヘクタールのギアム・シアク・ケチル-ブキット・バツ生物圏保護区、同じくリアウ州にある 10 万 6000 ヘクタールのセネピス・スマトラトラ保護区、そして 1 万 6,400 ヘクタールのジャンビ州タマン・ラジャ自然保護区があります。他にも APP が参加する野生動物保護活動には、カリマンタンのクタイ・オランウータン・プログラム、ウジュン・クロン国立公園でのジャワサイ保護活動があります。

インドネシアサファリパークについて

タマン・サファリ・インドネシア (TSI) は、自然生息地外に生息するインドネシアの希少生物保護活動を主に行っている団体です。TSI は、1990 年 3 月 16 日に、観光・郵政・通信相である Soesilo Soedarman 氏より国家観光対象として宣言されました。TSI は、緩衝地帯で非農

業地域のグデ・パンランゴ国立公園の一部で、西ジャワ州の Cisarua Districk – Bogor の Cibeureum 村に位置しています。自然生息地外で生息する生物の保護、教育、調査、保養活動を行っています。

++

本件に関するお問い合わせ先：

オーストラリア

PPR社

Miriam Tulevski

電話: 0419 425 455

Email: app.australia@cohnwolfe.com

北米

Cohn & Wolfe 社

Jim Martinez

電話: 312-596-3315

Email: CWUS-APPAmericas@cohnwolfe.com

イギリス

Cohn & Wolfe社メディアチーム

Email: app.ukteam@cohnwolfe.com

インドネシア

APPインドネシア

Aniela Maria

Email: aniela_maria@app.co.id

スマトラトラ保護基金(YPHS)

バストーニ

Email: toni_bst@yahoo.co.id

携帯: +62-0813 657 111 60

住所: Jalan Sadar No. 25 Simpung Tetap Darul Ikhsan
Dumai Barat, Kota Fumai-Riau